

北海道大学理学部 厚岸臨海実験所

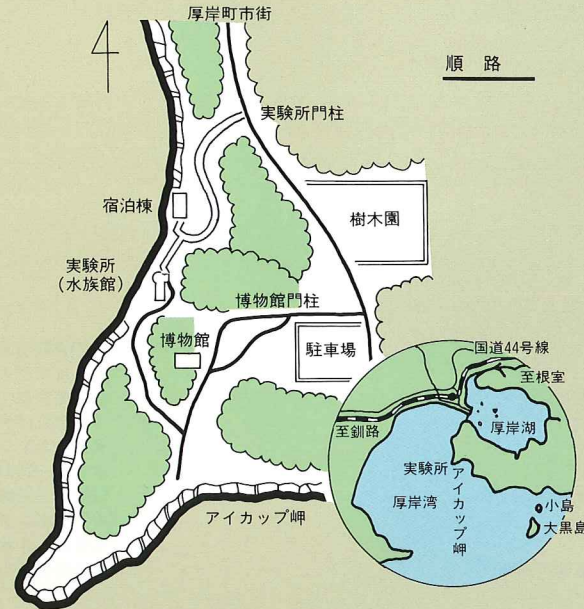
愛冠自然史博物館

AIKAP MUSEUM OF
NATURAL HISTORY



エゾシカ

水族館・博物館順路



厚岸臨海実験所の紹介

北海道大学理学部附属厚岸臨海実験所は、1931年に創設された、我が国でただ一つの親潮の直接の影響を受けた寒流系海洋生物の実験所で生態学や発生生物学の研究と学生の教育実習を行っています。

当実験所は、厚岸道立自然公園の中にあり、アイカッパ岬を含む約40万平方メートルの敷地を有し厚岸湾に面した道東の典型的な風景と、自然豊かな場所にあります。

入館案内

開館期間	5月10日～10月31日	
開館時間	9:00～16:30	
	9:00～12:00 (土曜日)	
休館日	毎週火曜日	
入館料金	個人：大人	220円
	：小人(小学生)	110円
	団体(30人以上)	
	：大人(1人につき)	180円
	：小人(1人につき)	90円

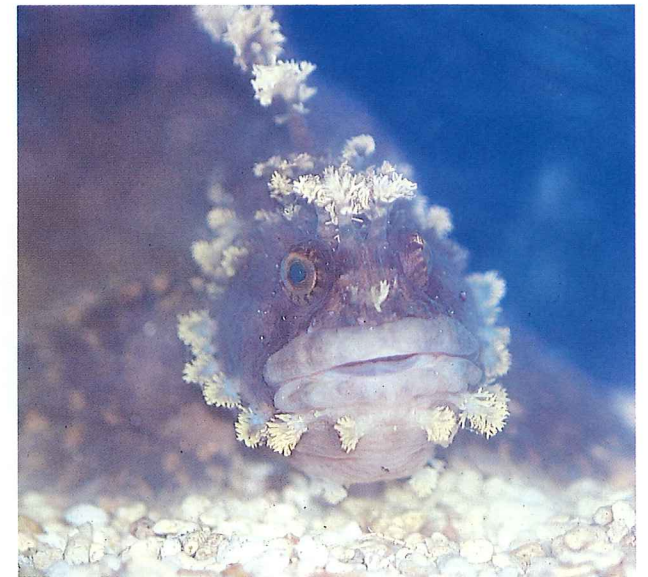
●入館料金は、博物館、水族館それぞれ別料金となっております。

北海道大学理学部 厚岸臨海実験所



水族館

AQUARIUM



フサギンボ

☒愛冠自然史博物館とは☒

博物館周辺の愛冠自然林には、キタキツネ、エゾシカ、シマリスなどの哺乳類、ミヤマカケス、ゴジュウカラ、オオルリなどの鳥類や多くの昆虫がすみ、エゾエンゴサク。北海道大学の校章でもあるオオバナノエンレイソウやオオサクラソウなど季節には多くの花を咲かせています。愛冠自然史博物館は、水族館と同じ目的で設置されたもので、建物は1989年に改築され、館内には脊椎動物、無脊椎動物や化石、鉱物など約2000点の標本を常時、展示しています。

☒博物館で見られる標本類☒

*エゾシマフクロウ

北海道の低地から高地の深い森林にすみ、大木の樹洞を巣とし、サケ・マスなどの魚を主食。日本のフクロウ中最大で、北海道に留鳥として分布する。

*ゼニガタアザラン

体色は、黒色の地色に白色の銭形の班紋があり、体長は1.9mくらい。北海道の襟裳岬を南限として太平洋岸の岩礁地域で生活する。

*エトビリカ

沿岸性の海鳥で潜水して魚や甲殻類などを捕らえる。日本では大黒島、霧多布岬など北海道の東部の島や岬で繁殖するが数は少ない。

☒厚岸臨海実験所水族館とは☒

水族館は、この臨海実験所の研究と教育に資する目的で設置されたもので、実験所創設と同時に開館した古い伝統をもっています。小さい建物ですが、研究に支障のない限り一般にも開放しています。一般の営業用の水族館と異なって、当水族館は研究教育のもので公開面積や水槽数は少ないですが、常時、魚類約30種、海産無脊椎動物約30種を飼育展示しています。その他に標本も展示しています。南の海と違って、華やかさも種類も少ない北の海の生物たちですが、高い生産力をもった親潮のおかげで、量は豊富です。食卓で見かける、おいしい魚や貝、カニ、海藻の多いのが北の海の特徴です。

☒実験所水族館で見られる生物たち☒

*チョウザメ

北海道では、日本海側の川に上がって水草などに産卵する。頭部下面に4本のひげがあり、泥土中の小動物を食べる。全長1.5mに達する。

*オオカミウオ

水深50～100mの海底にすみ、日本ではオホーツク海に多い。歯が強くて貝類や甲殻類を噛み砕いて中身を食べる。

*フサギンボ

先端がふさ状に分岐した多数の皮弁が頭に生え、独特な顔をしている。岩礁地帯や内湾にすみ全長40cmになる。



センダイハギ



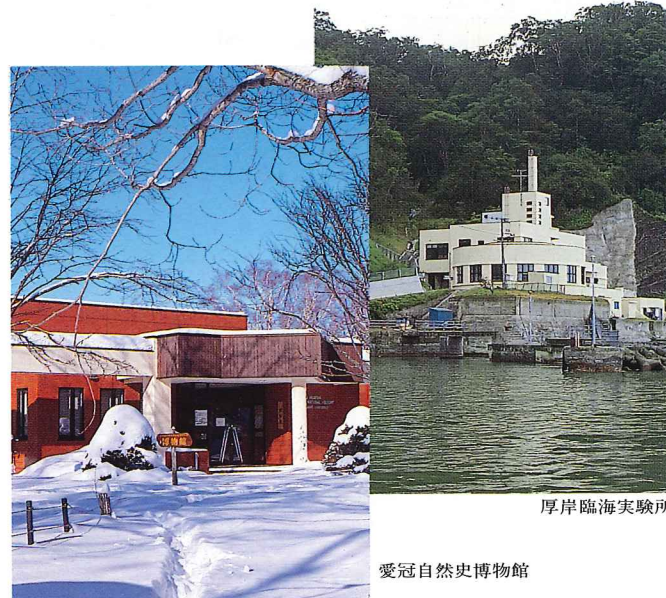
オオバナノエンレイソウ

この他の展示物は次のとおりです。

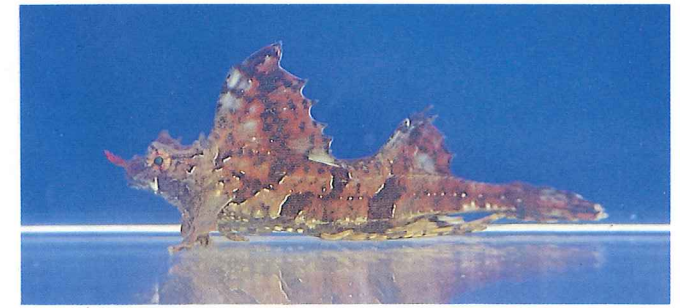
脊椎動物	
哺乳類	ヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、ゼニガタアザラン他14種
鳥類	タンチョウ、オオセグロカモメ、エトビリカ他68種
魚類	イトウ、サケ、メカジキ他72種
爬虫類	アカウミガメ他4種
海産無脊椎動物	
貝類他	311種
昆虫類	蝶類、蜂類など307種
化石	厚岸産ナガギキ他143種
鉱物	718種



オオサクラソウ



愛冠自然史博物館



クマガイウオ



クロタマキビ

飼育展示している主なものは次のとおりです。

脊椎動物	
爬虫類	アオウミガメ
魚類	クロソイ・ウサギアイナメ・マツカワ・ヨコスジカジカ・ギスカジカ・アメマス・ヌマガレイ・クロガシラカレイ他
無脊椎動物	
甲殻類	ハナサキガニ・ホッコイエビ・アナジャコ
軟体類	オオバンヒザラガイ・オオノガイ・ナガガキ・エゾボラ他
棘皮類	ヒトデ・キタムラサキウニ・キンコ
環形多毛類	エラコ
腔腸類	ヒダベリイソギンチャク